

京城日報

十一月十八日夕刊 (朝刊併せて八頁)

英國皇帝祝電

我皇陛下に對し

羅馬市民の熱狂

伊太利皇帝歸還

斯の日忘るべからざる記念日

勅語御下賜

休戰條約違反

フオツレ元帥の警告

普魯士世襲財產沒收

米戰後施設審議

米大統領領英銀行

獨前皇儲抑留さる

丁抹諸都市暴動

米軍死傷者十萬

輸出禁止解除方針

波軍獨司令部占

西伯米兵駐屯謝絶

枯骨に及ぶ

家庭工業を奨励せ

滞貨現狀と輸送力

片貨物の現狀

齊々哈爾濱銀

朝鮮米運延

市川中將出發

吉武武士動靜

三川期米暴騰

持地長官歸期

馬務部長入京

西伯利行二

茶前酒後

大陸の京城

移轉御披露

板谷漆工場

阿部辰之助著

取次販賣店松松堂

大正七年七月一日改正現行

阿部辰之助著

取次販賣店松松堂

大正七年七月一日改正現行

阿部辰之助著

取次販賣店松松堂

大正七年七月一日改正現行

大に近いか、誠意をいさうだ位
の面でも思つて居る。成る程星の
本が是か夫で、始終續け死ぬ
に照り付ける計する死めな
い。一番憂ひのは三月から五月迄
根本的の改革を要すべきもの少く
な女子の泥醉者は屢々予事の目だ
にあらすやと後日本は物

坊にお父さんだ、お父さんが分る
 顔に顔とを招り付けても何一
 の感も無い。
 庄ちゃんに庄吉は力一松に呼
 ぶ「お父さんがお家へこなつた
 」。

老眼に近づく親父、暗い香粉
 血眼の顔を見ても老眼眼で、
 一きのは三世紀、七月半、明一
 用だ、たのは今より五百年位
 である。明眼眼、即ち三の、
 明一、三の、三の、三の、三の、

青年諸君
 以下にて供給する復はか
 青松堂書店
 生ミ離英大の収入あり
 車學校
 城本町ウツボヤ書店
 三三三
 人入學許す規則備誌送
 試驗問題
 答案
 定價金五十圓發賣四圓
 學試驗問題
 榮を得られん事
 城日報社代理部
 松堂▼日韓書屋
 灰 山成り徳用品
 灰 用品虫喰なし
 候へば即時配達可致候
 富國太郎商店
 八彩振替京城一七七八

金録
義金録

金録
義金録

校則無代進呈

〇〇〇〇〇
〇〇〇〇〇
〇〇〇〇〇
〇〇〇〇〇

店大支店
電氣部
工作所

金録
義金録

金録
義金録

校則無代進呈

〇〇〇〇〇
〇〇〇〇〇
〇〇〇〇〇
〇〇〇〇〇

店大支店
電氣部
工作所

講和會議開催期

講和會議は明春早々ワルサイユにて開催
さる可し(見聞)

休戦條約修正

獨逸軍は波蘭の撤退を開始せり(見聞)

獨逸全權委員

獨逸全權委員はワルサイユにて開議

獨逸艦艇引渡申込

獨逸艦艇は波蘭の撤退を開始せり(見聞)

獨逸相要求確認

獨逸相は波蘭の撤退を開始せり(見聞)

獨逸大使説

獨逸大使は波蘭の撤退を開始せり(見聞)

ワルソー暴動鎮靜

ワルソーは波蘭の撤退を開始せり(見聞)

英國露都占領疑問

英國露都は波蘭の撤退を開始せり(見聞)

和蘭形勢險惡

和蘭は波蘭の撤退を開始せり(見聞)

米佛軍メツ占領

米佛軍は波蘭の撤退を開始せり(見聞)

獨軍アストリア撤退

獨軍は波蘭の撤退を開始せり(見聞)

社會過激主義抑壓

社會過激主義は波蘭の撤退を開始せり(見聞)

獎勵せんとするが如き企を爲す時は聯合國

獎勵せんとするが如き企を爲す時は聯合國

化學工業前途

化學工業は波蘭の撤退を開始せり(見聞)

獨逸共和國宣言

獨逸共和國は波蘭の撤退を開始せり(見聞)

獨逸波蘭撤退開始

獨逸波蘭撤退開始

獨逸王儲即位

獨逸王儲は波蘭の撤退を開始せり(見聞)

獨逸王儲即位

獨逸王儲は波蘭の撤退を開始せり(見聞)

獨逸王儲即位

獨逸王儲は波蘭の撤退を開始せり(見聞)

獨逸王儲即位

獨逸王儲は波蘭の撤退を開始せり(見聞)

獨逸王儲即位

獨逸王儲は波蘭の撤退を開始せり(見聞)

獨逸王儲即位

獨逸王儲は波蘭の撤退を開始せり(見聞)

獨逸王儲即位

獨逸王儲は波蘭の撤退を開始せり(見聞)

獨逸王儲即位

獨逸王儲は波蘭の撤退を開始せり(見聞)

獨逸王儲即位

獨逸王儲は波蘭の撤退を開始せり(見聞)

獨逸王儲即位

獨逸王儲は波蘭の撤退を開始せり(見聞)

獨逸王儲即位

獨逸王儲は波蘭の撤退を開始せり(見聞)

獨逸王儲即位

獨逸王儲は波蘭の撤退を開始せり(見聞)

獨逸王儲即位

獨逸王儲は波蘭の撤退を開始せり(見聞)

獨逸王儲即位

獨逸王儲は波蘭の撤退を開始せり(見聞)

上海朝鮮

上海朝鮮は波蘭の撤退を開始せり(見聞)

上海朝鮮

上海朝鮮は波蘭の撤退を開始せり(見聞)

上海朝鮮

上海朝鮮は波蘭の撤退を開始せり(見聞)

上海朝鮮

上海朝鮮は波蘭の撤退を開始せり(見聞)

上海朝鮮

上海朝鮮は波蘭の撤退を開始せり(見聞)

上海朝鮮

上海朝鮮は波蘭の撤退を開始せり(見聞)

上海朝鮮

上海朝鮮は波蘭の撤退を開始せり(見聞)

上海朝鮮

上海朝鮮は波蘭の撤退を開始せり(見聞)

上海朝鮮

上海朝鮮は波蘭の撤退を開始せり(見聞)

上海朝鮮

上海朝鮮は波蘭の撤退を開始せり(見聞)

上海朝鮮

上海朝鮮は波蘭の撤退を開始せり(見聞)

上海朝鮮

上海朝鮮は波蘭の撤退を開始せり(見聞)

上海朝鮮

上海朝鮮は波蘭の撤退を開始せり(見聞)

上海朝鮮

上海朝鮮は波蘭の撤退を開始せり(見聞)

上海朝鮮

上海朝鮮は波蘭の撤退を開始せり(見聞)

上海朝鮮

上海朝鮮は波蘭の撤退を開始せり(見聞)

英首相の新政策

英首相は波蘭の撤退を開始せり(見聞)

英首相の新政策

英首相は波蘭の撤退を開始せり(見聞)

英首相の新政策

英首相は波蘭の撤退を開始せり(見聞)

英首相の新政策

英首相は波蘭の撤退を開始せり(見聞)

英首相の新政策

英首相は波蘭の撤退を開始せり(見聞)

英首相の新政策

英首相は波蘭の撤退を開始せり(見聞)

英首相の新政策

英首相は波蘭の撤退を開始せり(見聞)

英首相の新政策

英首相は波蘭の撤退を開始せり(見聞)

英首相の新政策

英首相は波蘭の撤退を開始せり(見聞)

英首相の新政策

英首相は波蘭の撤退を開始せり(見聞)

英首相の新政策

英首相は波蘭の撤退を開始せり(見聞)

英首相の新政策

英首相は波蘭の撤退を開始せり(見聞)

英首相の新政策

英首相は波蘭の撤退を開始せり(見聞)

英首相の新政策

英首相は波蘭の撤退を開始せり(見聞)

英首相の新政策

英首相は波蘭の撤退を開始せり(見聞)

英首相の新政策

英首相は波蘭の撤退を開始せり(見聞)

市川中將出發

市川中將は波蘭の撤退を開始せり(見聞)

市川中將出發

市川中將は波蘭の撤退を開始せり(見聞)

市川中將出發

市川中將は波蘭の撤退を開始せり(見聞)

市川中將出發

市川中將は波蘭の撤退を開始せり(見聞)

市川中將出發

市川中將は波蘭の撤退を開始せり(見聞)

市川中將出發

市川中將は波蘭の撤退を開始せり(見聞)

市川中將出發

市川中將は波蘭の撤退を開始せり(見聞)

市川中將出發

市川中將は波蘭の撤退を開始せり(見聞)

市川中將出發

市川中將は波蘭の撤退を開始せり(見聞)

市川中將出發

市川中將は波蘭の撤退を開始せり(見聞)

市川中將出發

市川中將は波蘭の撤退を開始せり(見聞)

市川中將出發

市川中將は波蘭の撤退を開始せり(見聞)

市川中將出發

市川中將は波蘭の撤退を開始せり(見聞)

市川中將出發

市川中將は波蘭の撤退を開始せり(見聞)

市川中將出發

市川中將は波蘭の撤退を開始せり(見聞)

市川中將出發

市川中將は波蘭の撤退を開始せり(見聞)

東京市川中將出發

東京市川中將出發

東京市川中將出發

東京市川中將出發

東京市川中將出發

東京市川中將出發

東京市川中將出發

東京市川中將出發

東京市川中將出發

東京市川中將出發

東京市川中將出發

東京市川中將出發

東京市川中將出發

東京市川中將出發

東京市川中將出發

東京市川中將出發

東京市川中將出發

東京市川中將出發

東京市川中將出發

東京市川中將出發

東京市川中將出發

東京市川中將出發

東京市川中將出發

東京市川中將出發

東京市川中將出發

東京市川中將出發

東京市川中將出發

東京市川中將出發

東京市川中將出發

東京市川中將出發

東京市川中將出發

東京市川中將出發

印ンカルマ

●日本一
三ほまれ味噌
昨清上最

日米醬油會社
京城出張所
電話二四〇五

月經新藥レズリン
常盤橋藥房

寫眞出版部
真京日寫眞製版部

最新刊
大阪屋號

現代百科說林
碩學

大賣捌所
代報部

いちばんよくきく

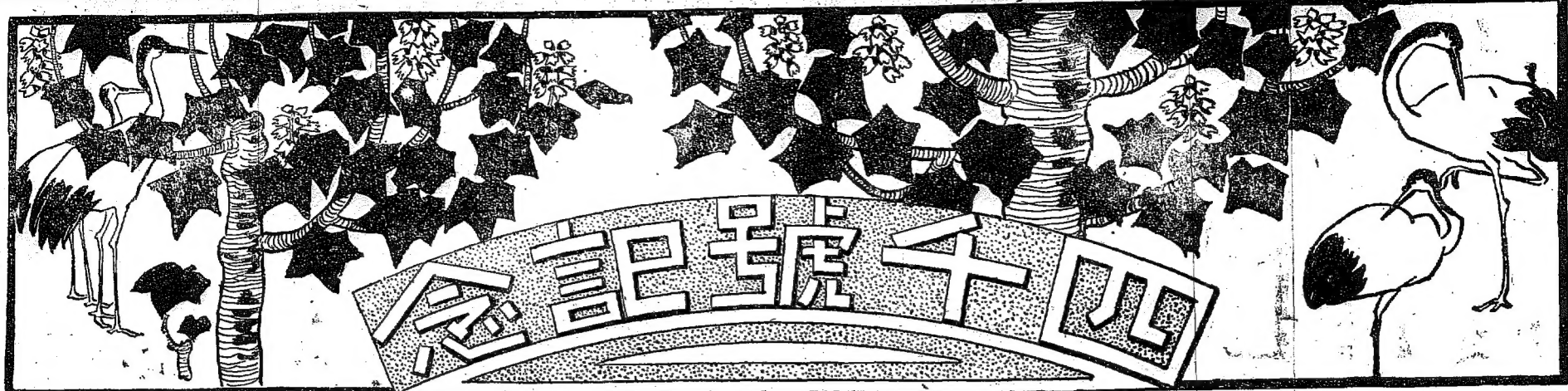
アレ止は
本店謹製の

クララ身美クリーム

此のクララ美容クリームは素肌の美を増し白粉の障を良くする品質第一のフル・リヤクセにして異くも皇后宮儀御用品たる光榮を辱うしつつあり。

東京期米
仁川米豆取引
十八日の一月限

[illegible]



憶起す朝鮮の事共

小宮三保松氏（は或は睡蓮に或は室内に集めて翫
 樞密顧問官 小松原英太郎氏筆

々々死官の理由より以後身邊の方
針に就て迄も誠に幾分の涙金
を與へてひきさらしめた然し何分
にも裕福でない國內の事情は彼等
をして満足せしむるだけの事は出
來よう筈がなく且つ智能の餘りに

功在

花
 子
 錦
 花
 子
 錦



拓殖銀行總裁

水越理庸比筆

と云ふ理由により、以後の爲に
針に就て盗も識りし金の硬貨
を與へてひきさらしめたる然し何分
にも、擧げ足せない國內の事情は彼等
をして満足せしむる可はず事は出
来ざる筈がなくつて情態餘りに
堪へない彼等は我等の陛下ヲ基の
心より出したものといふ事を知ら
すに用く。尤も我が總督府に呪つ
たのであるから堪へ不成なる或る
は門前御座居をなして余を出立を
待受けて抗議に及び或るは車馬を
前へ通して余の行路を妨害又或は
時常路上より余を監視する等の事
態知らぬ有様であつた折ら警察官
時の帝陛下下は昌隆親王御座居さ
る。由を申込まれたのである伊
藤公一が乞願する人となつたやう
に、今迄頼みの人となつたやうに
昌隆親王は九兄に餘らずに忠孝
軒倉邸内には島や、陝の臣家さ
なり足入れ賜ふまい程實に
極端無情なものがあつた然し

▲一身を捧げて 顧

の關係に努めようといふ決心した全
身については是れ位の手は使つて加

祝四千號。
京城本町二丁目
小川 勝平
法律事務所
電話四一番

祝四千號
新龍山齒科醫院
東京齒科
醫學士 廣瀬文質
新龍山溪江通三角地

祝四千號
東海生命保險會社
朝鮮大連出張所

祝 四 千 號
 銅鈔票現物定期取引
 安東信託公所
 安東縣和大橋通 電話六八八番一

祝四千號

朝鮮銀行
安東縣支店

振替口座京城一一五一番
大連六〇三番
電話二番五番
電話七番七番

支那

電話七番七番

祝四千號

安東縣五番通六丁目
株式會社

安東銀行

電話

一三番
六四番

舊市街出張所
撫順支店

奉天支店

安東縣市場六丁目

株式會社

滿洲商業銀行

日電話(四二)番

以前、この國に有る親類の者にして、
て不肖な事、渡洋する事などし、
急遽、各國へ後にして、
流亡を蒙り、切つて今は「今日より
歸國の旨となつて彼の國の母
に身を投ず」といふ覺悟
定めたやある、幸ひにして、
無く韓國に歸たる東城に著く、
ちに總統の命に從つて、
といふ役、下にて當時伏魔殿の
稱ある人、の耳には、
た、いふ聲は或は榮華の如く響い
かも知れな

▲伏魔殿の異稱

同席は置に、

い見舞得ぬとさせ得ずして仕舞
らば、所行を怠りたならば必ず事
誦の游ばれぬに能く此の點
に於て注意をななければなら
ぬ。

△**狹隘の嚴諭で** あ
た是に依つて先づ伏魔殿の整理
を取りかつたのであるが當時の
内大臣は彼等李尹用氏等に李
氏の令兄に當る人であつたが
賢明な者頭腦も深くも閉した
の爲めに、我政策上の誠意を
示す事が出来なかつた故か余程

拓殖銀行總裁 水越 理庸氏筆

の數もする處ではなかつた即ち
 花を菊の盛を伴ひ宮殿を深の而も
 数多き不用の建築物は悉く取り

して是れを整理すべきかといふ
標さへもつき兼ねる程であつた
秩序不整然の狀態は譬ふるに物
い次第であつた
決して限制をしてはならないとい
論は徹底する迄は大いに爲し
必ず得るべきなさいめねばなら

[illegible]

大日
乳香

祝京城日報送四千号
德和号主人
德和号主人

押つて官の廳へ歸つて數々面談した
行儀を仰いだのである一を述べ
は十を推し知らるゝであり
是を置に宮内府のみならず實に
事斯かある状態の裡にあつた朝鮮
僧に十餘年後の今日に於け
狀況を見れば甚だ悲しむる覺感に
かざるを得ないであらう是程感
ある人々の努力に依るものでも
問た興つて力があるものは即ち
城日親社であるさう事は決して
云れてはならないところでその前途
徐々隆盛を知らふであらう 支那

京坂本町壹丁目
橋口金物店
電話四百四十四番
振替口座 京坂四七九番
祝四千號
京坂旭町二丁目
株式會社 京城葬儀社
電話一五六七番

鈴木兩替店
電話三三三番

祝 四 千 號

安東縣
料理屋組合

祝四千號
龍山水產株式會社
龍山鎮立通十三番地
電話 一五番

祝四千號

安東信託公所
所屬仲買店
(イロハ順)

原田市松商店
電話八六番四〇四

東盛鐵器莊
電話一四二番

大島洋行
電話四〇七番

大森兩替店
電話一三六番

王作臣
電話番

田中德商店
電話三六番

竹本辰春郎

祝 四 千 號

安東縣市場通り

雜貨洋酒
食料品商

龜屋

電話四〇番

安東滿鐵
電燈營業所

電話二五五番

祝四千號

東海生命保險會社

朝鮮大連出張所

京城本町一丁目一六番
電話長七四番

○本社東京麹町區二丁目
○常駐長松方五丁目
○加人社長相模鐵道二丁目
加入者ノ利益最も多シ

引所番一

祝 四 千 號

安東縣市場六丁目
株式會社
滿洲商業銀行
日電話 四二八番
中電話 一六八番
舊市街出張所

祝四千號

新龍山齒科醫院

東京齒科
醫學士廣瀨文質

新龍山溪江通三角地

號 千 四
取 期 定 物 現 票
公 託 信 東
九 番 八 六 話 電 通 橋 和 大 順

祝 四 千 號

安東縣五番通六丁目
株式會社
安東銀行
電話 一三六番
舊市街出張所
撫順支店 奉天支店

祝四千號
京坂本町二丁目
小川 勝平
法律事務所
電話四一番

祝
鈔 銅
安
東安

祝四千號

朝鮮銀行
安東縣支店

振替口座京城一五一番
同
大連六〇三番
電話二番五番
支那電話七七番

安東大發展史

十有五年之回顧

安東大發展史 十有五年之回顧

安東大發展史 十有五年之回顧



六月に於て、安東大發展史 十有五年之回顧

安東大發展史 十有五年之回顧

安東大發展史 十有五年之回顧

安東大發展史 十有五年之回顧

安東大發展史 十有五年之回顧

安東大發展史 十有五年之回顧

安東大發展史 十有五年之回顧

安東大發展史 十有五年之回顧

安東大發展史 十有五年之回顧

安東大發展史 十有五年之回顧

百萬町歩に亘りて 三億五千餘畝の巨林を蔵する 鴨緑上流大森林 探木公司の事業と其將來

鴨緑上流大森林 探木公司の事業と其將來

鴨緑上流大森林 探木公司の事業と其將來

鴨緑上流大森林 探木公司の事業と其將來

鴨緑上流大森林 探木公司の事業と其將來

鴨緑上流大森林 探木公司の事業と其將來

鴨緑上流大森林 探木公司の事業と其將來

鴨緑上流大森林 探木公司の事業と其將來

鴨緑江 であつて鴨緑江 鴨緑江 鴨緑江

鴨緑江 鴨緑江 鴨緑江

鴨緑江 鴨緑江 鴨緑江

鴨緑江 鴨緑江 鴨緑江

鴨緑江 鴨緑江 鴨緑江

鴨緑江 鴨緑江 鴨緑江

鴨緑江 鴨緑江 鴨緑江

鴨緑江 鴨緑江 鴨緑江

鴨緑江 鴨緑江 鴨緑江

鴨緑江 鴨緑江 鴨緑江

鴨緑江 鴨緑江 鴨緑江

鴨緑江 鴨緑江 鴨緑江

鴨緑江 鴨緑江 鴨緑江

鴨緑江 鴨緑江 鴨緑江

鴨緑江 鴨緑江 鴨緑江

鴨緑江 鴨緑江 鴨緑江

鴨緑江 鴨緑江 鴨緑江

鴨緑江 鴨緑江 鴨緑江

鴨緑江 鴨緑江 鴨緑江

鴨緑江 鴨緑江 鴨緑江

鴨緑江 鴨緑江 鴨緑江

鴨緑江 鴨緑江 鴨緑江

鴨緑江 鴨緑江 鴨緑江

鴨緑江 鴨緑江 鴨緑江

鴨緑江 鴨緑江 鴨緑江

鴨緑江 鴨緑江 鴨緑江

鴨緑江 鴨緑江 鴨緑江

鴨緑江 鴨緑江 鴨緑江

鴨緑江 鴨緑江 鴨緑江

鴨緑江 鴨緑江 鴨緑江

鴨緑江 鴨緑江 鴨緑江

鴨緑江 鴨緑江 鴨緑江

鴨緑江 鴨緑江 鴨緑江

鴨緑江 鴨緑江 鴨緑江

鴨緑江 鴨緑江 鴨緑江

鴨緑江 鴨緑江 鴨緑江

鴨緑江 鴨緑江 鴨緑江

鴨緑江 鴨緑江 鴨緑江

鴨緑江 鴨緑江 鴨緑江

鴨緑江 鴨緑江 鴨緑江

鴨緑江 鴨緑江 鴨緑江

鴨緑江 鴨緑江 鴨緑江

鴨緑江 鴨緑江 鴨緑江

鴨緑江 鴨緑江 鴨緑江

鴨緑江 鴨緑江 鴨緑江

鴨緑江 鴨緑江 鴨緑江

鴨緑江 鴨緑江 鴨緑江

鴨緑江 鴨緑江 鴨緑江

支那安東縣江岸通

安東挽材合資會社

電話一〇八番

造船材料用原木 安東縣三番通六丁目

廣濟洋行

電話二八五番

海運業

近藤正敬

電話二八五番

安奉線本溪湖

吉田商店

電話四七番

滿洲安東縣市場通

石崎商店

電話三三八番

日本燐寸株式會社

安東製軸所

安東縣六道講

株式會社 滿鮮鐵工所

新工場

安東縣一番通三丁目

電話三三六番

同六道講西湖通り

電話二八三番

○新義州發展史

新州府は朝平、安北の二縣に置かれ、朝平の大江を隔ち、満洲の安人縣と相對し、唐土のは人の知る處である。我朝の訖魯城を距る事實に三百三哩より餘計山口より過つて約十二哩の地處にある。

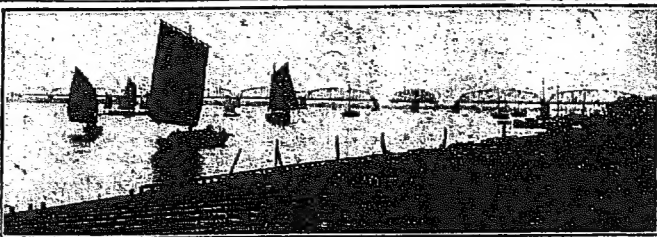
此地は普魯江畔の邊なり、此の面の草原であつたが、去る明治三十七八年戰役の時、我皇軍の騎兵を以て朝平年餘り遼東軍を給養して滿洲半野に急進するや、敵軍安南、松花子川の作戦に最も重要な地となり、經いて朝鮮鐵道建設の要路に迫れて、龍川、險阻、遼寧省に於て同年六月開城、平壤及新義州に據拠を設けて京城、海州間の鐵路を急いで敷設せられた。

新州は遼東の首程を急い、超て大正四年四月廢制にして奉天縣に併合され、新州府及び學校は廢止されて新義州府及び學校は廢止された。此の湖の底民は土人は皆永春朝月成勳、泰順兩太師代理、市川信清の諸氏である。

屠畜、鹽は其の存在に餘計な事なく、河水を記して水に苦み、ある事の多きを愛ひ、農耕、草業、國境にて執着州を一週す防衛も堪へざる事は新義州の實情なり。土地に對する事は、新州に對し、他小學生の建築次第、増築、民間小學校の建築を非常に忙忙の時局下でやつた。

元來、新義州は事實上に於て開港場であつたけれども、其の官官を見

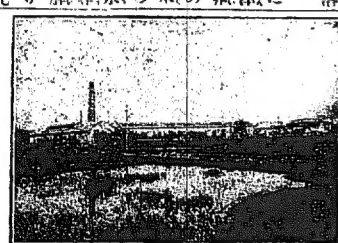
日本土木工務司



朝鮮總督府營林廠事業

北北嶺嶺に其本城を置くける。其嶺
地府縣所管地也。或謂北
嶺及平安北嶺の三道、路より其の
區隔なり。北嶺二百二十里、路より
上給か、内地國有林野、而而嶺の
平嶺以上より其城地、地方約三
歩、距離二百四五十里にして、秋田、
水俣の二大城に併合さる。
對比するの會は遙かに大なり、而
して管内主として疲弊困窮を以て
林相を爲し、針葉樹約七割、闊葉樹約
三割を成せるの良好なり。
○阿左の作樂 檜森縣所管森林
に伐木場を出てを販賣する内、嶺人
にして伐木業を圖るに經濟の要
に著は、伐木を許可し、資役の上
を爲し、廠の所要材は之を販賣し
否らずともは立木代を徴收し、
縛りてし居れり、而して森林令
に據は、林相の取締權なきなり、地
主民も前記伐代の違法なるを指

○闊綠江上流筏



あるの状態なり
 漂流木整理
 明治四十二年三月

○安東縣と鴨綠江

東の起點及び懸往の價道は三
多く日露戰爭の際に發生し
見ゆるの如く思惟の様に
安東から遼陽に至る諸を免
命た何故に於ては遼陽
止に於ては安東と遼陽
止に於ては安東と遼陽
止に於ては安東と遼陽



對してまでも輸送其他の形態を
需要家は今更の如く狼狽の状

○化學染料に超越せる

建興公司染工所

建興公司染工所の製造する折柄本色の製法は

からざるものなく染にカ

の内地に於ける生産なきを

の特色は多種多様にして紫
に紺、カー、色、藍色、緑色、赤
に用せざるは綿布の外毛織、絹織、
市販、種多、染料、織物、織物、
に於て盛んに使用しつゝある

建興公司染工場の製造する折柄本色の製法は

からざるものなく染にカ

の内地に於ける生産なきを

の特色は多種多様にして紫
に紺、カー、色、藍色、緑色、赤
に用せざるは綿布の外毛織、絹織、
市販、種多、染料、織物、織物、
に於て盛んに使用しつゝある

○三兵製材所

所は三井物産株式會社新設州
鐵道株式會社の附屬製鐵工場で、
其の創立は大正五年十二月五
日のついでに、工場の建坪は百五十
噸程の使用の動力は蒸氣七十五
馬力である。原料鐵礦は自國產
鐵一萬二噸計、木材總額は四萬
噸、上敷は約四十人、外に他
の無賃で使用する苦力は約
六十名を要しない、一箇年の
生産量は約三萬餘噸である。
並せて朝鮮方面である。

號千四視

安東江岸通

製材業及
木材販賣

加來製材所

店千加來音吉
電話二二一番

祝四千號

安東縣六道講

南滿洲製材公司

工場用 八四番
社宅 一八七番

視 四 千 號

大阪商船株式會社
橫濱正金海上株式會社
逕逕信用保險株式會社
帝國生命保險株式會社
日本海上保險株式會社
英國サン火災株式會社
淺野セメント會社

代理店

貿易商

三省洋行

電話 五二一
電報 九四〇
中華電話 九四〇
振替 口座 〇九番

帆船汽船曳船漁船舥船等の建造に應ず

高見造船所

安東縣江岸通り

祝四千號

貨易 精米業 自轉車 疊表類

安東縣市場通五丁目

達磨商會

日電話 一九五〇番
中電話 九五番

號千四祝

東亞煙草株式會社

